|  |  |
| --- | --- |
| 🌸研究員生活を振り返って | |
| 研究所に入る前までは、タブレットPCをどのように授業で生かせばよいか分からない自分がいました。こんな自分が研究所に入っていいのかと、とても不安でした。しかし、研究所の楽しくて、とっても明るい先生方に支えられ、2年間を過ごすことができました。また、タブレットPCの活用方法やプログラミングについてなど、多くの学びがあった２年間でした。この研究所で学んだことをこれからの教員生活に生かしたいと思います。本当にありがとうございました。  三股小学校　　　田鍋　真由 | 本年度の研究は、タブレット活用に加えて、来年度から実施になるプログラミング教育に関する研究も始まりました。勉強不足なこともあり、とても不安でしたが、なんとか１年終えることができました。振り返ってみると毎週の研究所でとても充実した時間を過ごすことができました。来年度は大きく変化のある１年だと思いますが、みなさんで協力して変化に対応していきたいですね。  園田先生を始め、たくさんの先生方にお世話になりました。ありがとうございました。  三股小学校　　　上森　翔太 |
| 通常の勤務では会う機会がなかったであろう、他校の先生方と一緒に研究をすることは、とても楽しく、いろいろな刺激を受けることができました。  また、「プログラミング教育」という学習内容を深く学べたことが何よりも自分の糧になったと感じています。まだまだ勉強中ですが、私と同じように不安を感じている先生方が、安心して指導ができるように来年度の研究所の活動に努めて参ります。  勝岡小学校　　　杉尾　育樹 | これまで経験していない新しい時代が来るのだと、社会や教育の変化を大きく感じた１年でした。新たなチャレンジにも前向きに取り組み、今わくわくした気持ちでいられるのは、いつも楽しく笑顔いっぱいの、居心地のよい研究所だったからです。どんな意見や質問も受け入れてもらいました。ICTを効果的に活用することは特別支援学級に在籍する児童の学習や将来にも意義深いと思います。研究所での学びを学校で共有し、生かしていきます。  梶山小学校　　　荒井　のぞ美 |
| 今考えると本当に申し訳ないことですが、はじめは「研究所ってどんなところ？」と、無知のまま開所式を迎えたことを覚えています。１年間でたくさんの情報を得たり、試行錯誤を繰り返したりした証として、とじていったプリント類は５㎝の厚さになりました。導入された児童用TPCを学校で積極的に活用している姿から、研究所での取組は意義のあることだと実感しています。アットホームな雰囲気の中でも鋭く的確で、難しい言葉が飛び交う研究所での時間はこれからの教員生活、人生を豊かなものにしてくれると思います。１年間お世話になりました。  宮村小学校　　　渡邉　彩香 | 今年度の研究所は、今までのＩＣＴ機器活用に加え、プログラミング教育にも取り組みました。  特に小学校の教育現場においては喫緊の課題であり、町内の先生方の負担軽減になると嬉しいです。研究紀要には、ＩＣＴ機器と「みまたんモデル」との関連が一目で分かるようになっています。プログラミング教育と合わせて、来年度先生方に活用していただき、より良い内容に作りかえていただきたいです。ありがとうございました。  長田小学校　　　藤田　政宏 |
| 研究所は、楽しく学ぶことができます。そして「学校全体、町全体の教育に目を向けるきっかけ作りになる場所」だと、２年間の研究所生活を通して思いました。私は、教師としてまだまだ未熟で、自分のことで精一杯です。しかし、そんな私が子どもたちだけでなく、先生方のために何かできることはないかと考えるようになったのです。研究所に行って、ほんの少しだけ一皮剥けたような気がします。２年間、本当にありがとうございました。  三股西小学校　　　郡　千裕 | 研究員１年目は、初めてのことばかりで、新しい学びや発見の連続でした。特に、先輩方がTPCやプログラミングソフトを効果的に活用し、実践される姿を見て、たくさんの刺激をいただきました。来年度は、作成された「プログラミング教育の年間指導計画(案)」や「身に付けさせておきたい知識・技能について(案)」を基に実践を重ねて、子どもたちの学力向上に貢献できたらと思います。たくさんの御指導と御協力、励ましの御言葉をありがとうございました。  三股西小学校　　　髙﨑　雅士 |
| 今年度研究所員に任命され、これまでもICTを使用したことはあったものの、その効果的な活用やTPCの活用、小学校教育という視点、プログラミング教育など、本当に初めてのことばかりで戸惑いも多くありました。しかし１年間同じ研究所の仲間である先生方に支えていただき、毎週充実した研究で自分自身の研鑽に繋げることができました。生徒の学力向上と、学校現場でより良いICT活用を目指して今後も修養に努めていこうと思います。たくさんのご指導、本当にありがとうございました。  三股中学校　　　原口　愛未 | 今年度、研究員に任命され、最初は戸惑いもありましたが、三股町の小中学校の先生方とともに研究していくという、とてもやりがいのある研究であり、毎週充実した活動ができました。  特にプログラミング教育については、勉強になることばかりで、時代の変化を強く感じました。また自分自身もＩＣＴを活用した授業を心がけ、生徒の学力向上について考えた１年でした。今年度学んだことを来年度に生かしていきたいと思います。  三股中学校　　　森　瑞樹 |

|  |  |
| --- | --- |
| 研究所だより | **第　８２　号**  **令和２年３月１２日発行**  **三股町教育研究所** |
|  | |
| **新学習指導要領の全面実施に向けて**  三股町校長会（勝岡小学校校長）  会　長　　和田　小夜子  **C:\Users\81003\Desktop\TPC活用写真\和田校長.JPG**現在、全国的に教職員の大量退職と新人教職員の大量採用、また、一方では講師不足がここ数年進行しています。まさに本県、そして本町でも身近な課題であります。そのような中、教職員の多忙感、大きくは働き方改革からくる教職員が授業を中心とした質の高い教育活動に専念できる環境を実現しなければなりません。ますます学校における教育の質の向上と児童生徒の教育の充実が求められています。  　いよいよ令和２年度及び令和３年度は、新学習指導要領の全面実施の年です。これからの教職員に求められる資質能力も多様です。例えば、新たな学び（知識や技能を活用する学習活動、探求型の学習、協働的な学び）をデザインできる実践的指導力や、外国語教育の導入、道徳の教科化、特別支援教育の充実、ＩＣＴ活用などが対応すべき課題として挙げられてきました。全面実施に向けて各学校で準備を進めてきました。  　さて、本町では平成２８年度までに各教室に大型テレビが配備され、２９年度からはタブレットＰＣが順次導入され、ＩＣＴ教育に関わる環境が整備されてきています。さらに、本町教育研究所では、本年度タブレットＰＣの効果的な活用の在り方を通して、プログラミング教育に係る授業を中心とした研究に取り組まれ、本町のＩＣＴ教育の推進を担ってきました。プログラミング教育の全体計画や、育成したい資質や能力を明確にした系統性のある年間指導計画案を作成できたことも、研究の成果です。また、学習支援システムの高度化と校内の情報ネットワークの構築、さらに、校務支援システムの導入も進んでいます。  　今後も、教育を取り巻く環境は、大きな変革の中で日々変化し続け、複雑化を呈していくことが予想されます。しかし、私たちは教育における「不易と流行」を見極めながら、文教三股の子どものたちの健全育成のため、学校のため、そして地域のために、日々研鑽を積みながら職務に当たっていかなければなりません。  　子どもたちにとって、学校における最大の教育環境は教職員です。高い専門性をもち、分かりやすい授業を行い、子どもに確かな学力を育成させるための授業力を求められています。そのためには、絶えず学び続ける教職員でありたいと願っております。  　来るべき新しい時代を見据えて、町校長会といたしましても、町内６小１中の強みを生かし、教育のプロジェクトチームである当教育研究所との連携を図りながら、三股町の教育の充実向上に向けた取組を推進していく所存です。  　最後になりましたが、今後とも三股町並びに三股町教育委員会のご指導ご支援をよろしくお願いいたします。 | |

「宮崎県教育研究機関連絡協議会発表会を終えて」

　令和２年２月７日に、宮崎県教育研修センターにて「令和元年度宮崎県教育研究機関連絡協議会第３７回研究発表大会」が開催されました。三股町教育研究所をはじめ、合計１２の研究発表が行われました。今回の研究発表大会は、「確かな学力」や「主体的・対話的で深い学び」、「基礎的・基本的な学習内容の定着」などについて取り上げられていました。さらに、今年の研究発表大会は、来年度から始まる「プログラミング教育」について研究を進めている研究機関も多くありました。

　三股町においては、研究主題を「主体的に学習に取り組み、協働的に問題を解決できるみまたん子の育成」、副題を「プログラミング教育に係る授業を通して」として研究を進めてきました。

　今大会では、三股町の教職員や児童生徒を対象に行ったアンケート結果や研究授業の成果や課題などをもとに研究発表を行いました。三股町教育研究所の発表を見ていただいた方々からのアンケートを見ると、多くの賞賛のご意見を頂きました。一方で、今後の三股町のタブレットＰＣのさらなる活用の方法やプログラミング教育の進め方などについての課題も見えました。

　他研究機関で推進されている研究内容には、今後の三股町の研究に参考になりそうな考えや取組も多くありました。

　これからも、タブレットＰＣの効果的な活用方法やプログラミング教育などの研究を進めて参りたいと思います。

【今年度の研究の概要】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

令和元年度宮崎県教育研究機関連絡協議会　第３７回研究発表大会

**三股町教育研究所発表に対する意見等**

|  |
| --- |
| １　参考になったこと・素晴らしいと思ったこと等  　○　ＩＣＴ機器を活用した授業に関する実践事例集（１００以上の事例）を作成し、町内の全教師がいつでも閲覧できる点が素晴らしいと感じました。  　○　教材データベース化は、教職員の資質向上を図る上でも、働き方改革を進める上でも、大変有効であると思いました。  　○　タブレットＰＣの有用性を４つに整理していることで、使い所が分かりやすかったです。あくまで教えるための道具であり、とらわれすぎないというメッセージも伝わりました。  　○　プログラミング教育の年間指導計画、身に付けさせたい知識・技能が、分かりやすく整理されていて、すぐに実践できそうだと思いました。どこの市町村も参考にしたいものでした。  ２　分からなかったこと・気になったこと等  ○　児童が、タブレットＰＣを使うことが目的になっている気がしました。そもそもタブレットの必要性は、どの程度あるのでしょうか。  ○　教科の中で指導を行う際に、プログラミングのリテラシーに、時間がとられることが気になりますが、過渡期なので仕方ない気もします。  　○　教科の学びを確かなものにするために、プログラミングを取り扱う意義とは何なのでしょうか。また、その確かな学びに対する評価はどうなっているのでしょうか。 |

≪　一年間を振り返って　≫　　　　　　　研究指導員　園　田　修　司

本年度は、研究主題「主体的に学習に取り組み、協働的に問題を解決できるみまたん子の育成」として、タブレットＰＣの効果的な活用の在り方とプログラミング教育に関する研究に取り組んできました。

　まず、タブレットＰＣ活用研究班は、「みまたんモデル」の各学習過程においてＩＣＴ機器をどのように効果的に活用しているか、昨年度作成した「タブレットＰＣ活用事例集」をもとに、タブレットＰＣの４つの有用性との関連で整理しました。さらに、児童生徒のＩＣＴ機器に関する意識調査を初めて行いました。児童生徒は、ＩＣＴ機器の活用を楽しみにしていると同時に、その活用により意欲的に学習に取り組むことが明らかになりました。次に、プログラミング教育研究班では、プログラミング教育に関する検証授業を通して、課題が明らかになりました。それを「プログラミング教育を行う際に身に付けさせておきたい知識・技能（案）」として整理しました。その他にも、プログラミング教育の全体計画（案）、年間指導計画（案）を作成しました。次年度からのプログラミング教育の参考になるのではないかと思います。

最後に、本年度研究を共に推進してきた１０名の研究員の皆さんの真摯な取組みにより、大変充実した研究ができ素晴らしい成果を挙げることができました。これも、研究所を支えていただいた町内の校長先生方及び関係各位の皆様方のご理解とご支援のおかげと心より感謝申し上げます。